

# 1988年度 【昭和63年度】

■組合員	4万0400人
■供給高	76億2234万円
■出資金	9億3900万円
■職員数	135人

- 4/29 家計簿「イキイキ体験集」完成
- 5/16 第12回総代会
- 5/16 平和文集「母と子の虹のねがい」が完成
- 5/16 新しい共同購入システムスタート
- 6/ 米の販売免許を取得
- 6/5 SSDⅢへ代表2人を派遣（～16）
- 7/11 平和学習会・SSDⅢ報告会
- 7/ 個人別集品スタート
- 8/20 夏休みちびっこ冒険キャンプ（～21）
- 9/ プロイラーの産地直送を開始
- 9/18 ストップ消費税！9・18生協組合員のつどい
- 10/4 文化講演会「光をかかげて生きる女たち」（寿岳章子氏）開催
- 10/8 産直鶏提携祝賀会
- 10/15 浦添支所オープン
- 10/16 韓国生協との交流に3人派遣（～20）
- 10/28 文化講演会「台所から見たくらしと経済」（輝峻淑子氏）開催
- 11/ ポークランチョンミート供給開始
- 11/ 「虹のはた」が毎週発行になる
- 11/13 全支所（4カ所）で生協まつりを開催（～12/11）
- 3/13 県産家庭紙の開発始まる
- 3/27 第1回商品活動交流会

## ■新しい共同購入システムへ

5月16日より九州6生協一斉に新しい共同購入システムによる事業がスタートしました。6生協間で、商品づくり、コンピュータシステム開発、物流センター準備など、ひとつにまとまって準備をすすめてきたことが実を結びました。

全班向けの個人別集品がスタートし、分け合いが便利になりました。しかし、急激な変革のため、組合員の間では多少混乱もありました。また、週500品目を1500品目にすることや週2回配達の実現できませんでした。



個人別週品がスタート

## ■コープポーク缶を開発

念願の「ポークランチョンミート」（ポーク缶）の供給が11月から始まりました。このポーク缶は、発色剤、結着剤を使わず、肉の割合を市販品より増やして3年8カ月の年月をかけて組合員のかにより開発されました。



安全安心なポーク缶の開発に向けて、理事で工場を視察

## ■第1回商品活動交流会

商品の学習と普及活動を行うためにブロック商品活動委員会が設けられ、1988年度は前期と後期に分け、それぞれテーマをもうけて学習しました。

3月27日那覇市で、ブロック商品活動委員会の活動交流が行われ、商品学習の結果を持ち寄り交流しました。

## ■プロイラーの産直開始

長崎県の生産者と提携して利用してきたプロイラーを、身近な県内業者で、よりおいしい60日の飼育日数で開発しました。

## ■SSDⅢに代表を派遣

1982年に引き続き、6月5日～15日、第3回国連軍縮特別総会（SSDⅢ）に県民生協として照屋勝世、石原恭枝の2人の常務理事を代表として派遣し、平和を願う世界の仲間と交流しました。



---

# 1989年度 【平成元年度】

---

■組合員	4万8000人
■供給高	91億7387万円
■出資金	10億7670万円
■職員数	150人

---

- 4/3 ユニセフ募金贈呈式
  - 5/29 第13回総代会
  - 7/ 消費税廃止3%還元運動
  - 7/ 県産家庭紙を開発
  - 8/3 宮古・石垣での新班説明会（～10）
  - 8/10 沖縄県民生協移行10周年記念レセプション
  - 8/28 夏休みこどもキャンプ（～29）
  - 9/25 ブロック商品活動交流会
  - 9/30 名護支所開設祝賀会
  - 10/16 文化講演会「くらしと税金」（湖東京至氏）開催（～17）
  - 10/ 生協まつり5会場で開催
  - 10/30 文化講演会「いきいき人生の為の食事学」（鈴木雅子氏）開催（～31）
  - 11/ 3%還元運動を再実施（～12月）
  - 11/5 生協まつり（名護支所）
  - 1/13 消費税廃止トラックパレード
  - 1/18 宮古組合員のつどい
  - 1/19 石垣組合員のつどい
  - 2/5 第14回臨時総代会で第1次中期計画を論議
  - 2/5 消費税廃止街頭行動
  - 3/ たすけあい共済スタート
  - 3/30 ミュージカル「杜子春」上演（～4/1）
- 

## ■消費税の廃止を求めて

国民の大多数の反対にも関わらず導入された消費税の廃止を求める活動を、組合員の学習と論議を深める中で、さまざまに取り組みました。

7月～12月の「3%還元運動」は、8058万円の消費税相当分を組合員に還元しました。また、消費税体験を寄せる一言メッセージやアンケートなどで組合員の声を集めました。配達トラックに「消費税反対」の横断幕をかかげ、支所ごとのトラックパレードも行いました。

組合員署名や短冊を利用した街頭署名などでは、過去最高である12万1837人の声を国会に届けました。2月には他の県内生協とも協力し、地元紙2紙に意見広告をのせました。



## ■県外生協視察

常務理事会・理事会で、県外の生協のお店を実際に視察し調査を行いました。生協のお店としての品揃え、規模、施設などについて、学習と論議を行うなど、店舗づくりの準備を進めてきました。



## ■宮古・石垣での共同購入開始

強い要望が出されていた石垣、宮古で「生協をよび会」がつくられ、9月末から商品の供給が始まりました。11月には久米島でも班が結成され、3つの離島で、394人が生協の仲間の輪に加わりました。「生協が利用できてうれしい」という声がある一方、冷凍品や冷蔵品などは、供給対象になっていないことから、「早く生鮮品を扱ってほしい」という強い要望も出されました。



石垣・宮古でひらかれた「組合員のつどい」には、あわせて74名が参加し、交流を深めました。

## ■名護支所開所

これまで名護には支所がなく、活動が思うように出来ませんでした。事あるごとに「支所づくり」が声を大に叫ばれており、開所が実現されたことは、運営委員の、当時の活発な活動を伺わせます。長い運営委員活動から、心新たにパート職員になられた組合員もいました。北部地区の理事の誕生で、組合員の相互の連帯のもとに地域へ根を下ろした活動へつながりました。



みんなで名護支所の開設を祝いました。

## ■たすけあい共済

「組合員の組合員による組合員のための共済」が1990年3月から募集を開始し、4000人をこえる加入者でスタートしました。第1弾のコープ共済「たすけあい」は、組合員どうしのお見舞い金制度で月々400円の掛け金で死亡時、入院時、家族の死亡や住宅災害にもお見舞い金がでます。生協の原点である「人を思いやる気持ち」を形に変えた共済です。



春の班長会で共済事業について説明を行いました

# 1990年度 【平成2年度】

■組合員	5万5600人
■供給高	114億2632万円
■出資金	13億2175万円
■職員数	185人

- 5/ コープ朝焼き食パン供給スタート
- 5/11 宮古・石垣・久米島で「組合員の集い」開催
- 5/28 第15回総代会
- 6/ 6支所で支所委員会がスタートし、支所ごとの活動が始まる
- 6/ 食生活委員会・環境問題委員会がスタート
- 7/10 5万人達成レセプション
- 7/14 北谷支所開設レセプションに150人参加
- 8/ 鹿児島での店舗研修に職員12人を派遣
- 9/7 15周年記念事業企画検討委員会を設置
- 9/ 組合員活動を推進するために10人乗り車両を購入
- 9/27 お店づくりに向けて第1回店舗検討委員会
- 10/11 県外店舗研修、店舗検討委員会・新任理事が参加（～13）
- 10/14 中部北ブロックで「水と環境問題」の講演会
- 11/2 どうするゴミ問題緊急シンポジウム
- 11/ 「ひのひかり」を導入
- 12/25 電力生協との事業提携の調印式、1月1週カタログ配布でスタート
- 2/27 創立15周年記念祝賀会
- 3/18 生協文化講演会「ゴミと地球と人間と」（松田美夜子氏）（～19）

## ■支所委員会・食生活委員会 ・環境問題委員会スタート

地方単位での活動と運動づくりをすすめるなかで、より多くの組合員が自発的に関わり、それぞれの地域の声をいかした活動をすすめるため、支所委員会がスタートしました。支所委員会と本部商品委員会とのつながりもでき、商品の開発・改善の取り組みを強めました。

安全で住みよい環境をつくりたいと、食生活委員会・環境問題委員会もスタートしました。食生活委員会では、栄養のバランスや子どもの食事、沖縄の伝統食の見直しなど食生活のありかたを考えました。環境問題委員会では環境問題に関する学習活動を通して、リサイクル運動や資源の再利用、ゴミ問題など可能な取り組みが検討されています。その一つとして、那覇市と名護市ではゴミ問題に関する文化講演会が行われました。

## ■店づくりすすむ

店舗づくりにむけ、店舗検討委員会が設置され、品揃え、規模、施設などについて学習と論議を行い、準備をすすめてきました。また、店舗担当職員12人を先進生協へ研修に派遣しました。



「どうしてお店が必要なのか」「どんな商品を揃えるのか」店舗アンケートのまとめの報告も受けながら、地区ごとに会議を開きました

## ■火災共済スタート

共済事業をすすめてきました。9月の班長会でコープ火災共済が案内され、10月1日より加入が受付されました。火災共済で1052人、たすけあい共済で5281人と多くの組合員が加入されました。

### CO・OP火災共済は だんぜんおとくです！

#### 安い掛金

保障金額1,000万円の年間掛金を比べてみますと(沖縄県)

住宅	鉄筋	6,300円	
火災	木造	30,000円	
共済	鉄筋	4,000円	2/3以下
共済	木造	7,000円	1/4以下

#### 新築価格保障 の契約ができます！

建築後、何年たった住宅でも新築に必要な価格で契約できますから安心です。



☆たすけあいの心がつくる生協の共済

## ■「ひのひかり」導入

コープ米の導入に向けて取り組みをすすめました。10月21日の生協まつりでは商品委員会第四部会がカタログでの供給に先駆けて、試食会を行いました。「おいしい!」「お米がつやつや」「香りがいい」。熊本産のお米「ひのひかり」を試食した方々の感想でした。

「ひのひかり」の産地の熊本県菊池市は、昼夜の寒暖差が大きく、菊池溪谷というきれいな水源もあり、美味しい米づくりの条件がそろっていました。「理屈がわからんと、うまか米ば作れん」「農家が土づくりをおろそかにすると、稲が病気になる」と、有機肥料で土づくりからおこない、低農

薬で育て、虫見板で虫の発生をチェックする。そんな手間ひま掛けて育てる、生産者の立山さんの熱意に感動しました。



大きな炊飯器いっぱいのご飯も、あっという間になくなりました(10月21日 宜野湾市海浜公園)

## ■創立15周年祝賀会

沖縄県民生協の創立15周年記念祝賀会が1991年2月27日に沖縄グランドキャッスルで開催されました。県内外から組合員や生協関係者、行政関係の方など約350人が参加されました。式典では大田知事のご挨拶(代読)、記念映画「翔べ未来へ」が上映されました。親泊康晴那覇市長もお見えになりご挨拶いただきました。年間供給高100億円を超えた中で行われた祝賀会の様子は沖縄タイムス、琉球新報の両紙に取り上げられました。



多くの方々が15歳になった生協を祝ってくださいました

挨拶の親泊市長

## 1991年度 【平成3年度】

■組合員	6万3600人
■供給高	135億7206万円
■出資金	15億6000万円
■職員数	231人

- 5/16 おかやまコープで店舗研修(運営委員長対象)  
5/21 伊江島への配達スタート  
5/27 第16回総代会  
6/ 雲仙・普賢岳噴火被災者救援募金に取り組む  
「湾岸戦争ユニセフ募金」に取り組む  
6/22 ひのひかり田植え体験団(～23)  
6/29 15周年記念式典、「イルカコンサート」開催  
8/1 「コープおきなわ」への名称変更  
虹のホームステイ受け入れ(～4)  
8/4 ヒロシマ行動(～6)  
子ども冒険キャンプ(～5)  
8/7 ナガサキ行動(～9)  
9/ 「子ども戦跡ガイドブック」作成  
9/2 1号店準備委員会総会  
10/11 「ひのひかり」稲刈り体験団  
11/ 福祉・助け合い委員会発足  
12/26 コープ米誕生記念祝賀会  
2/26 第1回産地交流集会  
3/9 文化講演会「地域づくりと子育て」開催  
3/27 虹のホームステイ(～30)  
3/30 少年・少女ヒロシマ・ナガサキの旅(～4/1)

### ■運営委員長の店舗研修

初めてのお店づくりに向けて、運営委員長90名がコープおかやまの店舗を実際に見学する店舗研修を実施しました。



「一般商品がこんなにあるの?」「やっぱりお店ほしいわ」という言葉が実感として聞かれました



「先に店舗を出した生協を参考にして、次の生協がよりよいお店をつくる」協力し合えるのが生協の良いところ(交流会にて)



おかやまコープ西大寺店を作る時につた歌で歓迎してくれました

## ■コープ米産地との交流

1990年から取り扱いは始まった「産直米ひのひかり」。組合員の代表を田植え体験団、稲刈り体験団として派遣するなど、生産者との交流を深めながら取り組まれました。

コープおきなわ各ブロックの代表は、ひのひかりのふるさと熊本県菊池市へ、6月に田植え、10月に稲刈りの体験に行ってきました。慣れない手で刈ったつもりで振り返るとわずか数メートル。かがむ腰が痛みだして何度も背中を叩いてはふうふう言う始末、稲刈りはやはり大変でした。



指導を受け、田植え体験の様子



ひのひかり稲刈り体験団

## ■伊江島配達スタート

様々な課題をクリアし、5月21日、7班50数人の組合員で配達スタートしました。



晴れやかに出発式（名護支所にて）

## ■コープおきなわへ名称変更

創立15周年を機に、8月1日から「沖縄県民生活協同組合」の名称が「生活協同組合コープおきなわ」へ変わりました。21世紀へむけて「県民の誰でもいつでも参加できる開かれた生協」というイメージにあった名称にする必要があるということになりました。名称の候補はいろいろありましたが、「覚えやすい」「親しみやすい」「これからの世代に受け入れやすい」などの諸条件を考慮し、全組合員や全職員アンケートなどを実施して決められました。

## ■虹のホームステイ

コープながのとの共催で虹のホームステイに取り組みました。夏の沖縄編では長野から8名の子どもたちが参加し、戦跡めぐりや海水浴を通して沖縄の子どもたちとの交流を深めました。3月の長野編では沖縄から参加した子ども達が松代大本



営の視察やスキー体験を行い、交流を深めました。



# 1992年度 【平成4年度】

■組合員	7万3000人
■供給高	152億4021万円
■出資金	19億3800万円
■職員数	271人

- 4/20 15周年記念誌発行
- 5/25 第17回通常総代会
- 6/13 具志川支所開設
- 7/14 牛乳パック回収スタート
- 7/16 コープ九州事業連合結成
- 7/24 環境問題連続講座（～12月）
- 8/5 ヒロシマ行動
- 8/7 ナガサキ行動
- 8/9 虹のホームステイ沖縄編
- 9/22 「PKO 基地化に反対し、真の国際貢献を求め  
る理事会アピール」採択
- 10/19 一般旅行代理店業の登録
- 10/ 若竹作業所再建支援金贈呈
- 10/ PL 法制定を求める署名（2万2000人）
- 11/13 3支所が浦添センターへ移転
- 11/16 本部が浦添センターへ移転
- 1/1 機関誌の名称を「虹のはた」から「Withこ  
ーぷ」に変更
- 2/ 「COOP 共済くたすけあい」推進特別功労賞  
受賞
- 2/1 コープ首里店舗準備委員会発足総会
- 2/23 配達到着お知らせテープの導入
- 3月 虹のホームステイ長野編

## ■具志川支所開所

会議や調理に利用できる部屋があり、いろんな組合員活動の拠点となる支所ができました。



開設祝賀会の様子。

## ■牛乳パック回収スタート

環境問題への取り組みを改めようと牛乳パックのリサイクルに取り組みました。当時100万パック、30トンの回収を目指しました。目に見える身近なリサイクル運動として、ゴミを減らし新しいパルプ（紙の原料）を使わずに済み、回収された牛乳パックは、15～20%の混入率が目標のトイレットペーパーになりました。



ロールペーパーの記者会見  
で挨拶する伊志嶺雅子副  
理事長



## ■コープ九州事業連合結成

コープおきなわ含む、九州各地の主要な8生協によって準備がすすめられていた「コープ九州事業連合」が活動をスタートさせました。8生協を合わせると組合員数は73万人、事業高は1600億円、職員数は2000人の規模になりました。



結成総会の様子（7月16日）

## ■本部・3支所が 浦添センターへ移転

11月に浦添市への本部移転が実現しました。また、6月に具志川支所新設、10月には浦添・那覇・首里支所が浦添センター内に移転し、施設の充実をはかりました。



地の利を生かしたいろんな活動への期待が寄せられました。

## ■慶良間諸島での共同購入開始

慶良間諸島（渡嘉敷、座間味、阿嘉、慶留間）でも共同購入が利用できるようになりました。

## ■コープ首里店舗準備委員会発足

1号店の立地は首里に決定し、関係行政への報告と指導をあおぐと同時に、地元商業者へのあいさつなどを行いました。また、1号店店舗準備委員会を中心に、出店にむけての準備がすすめられました。

## ■機関誌の名称変更

内外に「支持と共感」を得る活動を強めてきました。機関誌「虹のはた」の名称を「Withコープ」に変更し、内容の充実とともに、より親しみやすい紙面づくりを進めました。



機関誌Withコープ